

第3回野洲市商工業振興基本計画検討委員会 議事録要旨

- 日時 令和2年11月19日(木) 14:00~16:00
- 場所 中主防災コミセン2階研修室
- 委員 <出席9名>
金井 萬造 委員長、松沢 松治 副委員長、田中 勝也 委員、多田 裕 委員、
梅景 俊之 委員、北村 尚介 委員、橘 円 委員、水島 左知子 委員、
武内 了恵 委員
<欠席1名>村川 強 委員
- 事務局 環境経済部 西村次長、商工観光課 行俊課長、藤村専門員、川口主任
- 傍聴者 1名

1. 開会
2. 挨拶
3. 議題

・野洲市商工業振興基本計画(案)の確定について
⇒今回の会議は、これまでの会議の経過をもとに、計画の確定を目標に議論。

【事務局説明】

- ・基本計画(案)について、前回の委員会を踏まえ、修正・追加した部分を中心に説明。
- ・基本目標が、市長公約と整合していることを説明。
- ・村川委員(本務都合で欠席)から本委員会に向けて事前にお伺いしている意見の紹介。

■修正・追加した部分

- ・P.5【昼夜間比率】のデータに最新(平成27)国勢調査を追加した。
- ・P.12~15基本目標のページに、重点施策を追加した。
- ・P.16目標指標を追加した。

■市長公約との整合

- ・10月30日に栢木市長が就任された。基本計画については、内容を市長に説明をしており、これまで2回の委員会を開き、議論を積み上げる中で野洲市の課題を検討し、策定に向け進めてきたものであり、その内容について、市長が掲げる公約と整合していることで理解を得ている。

○公約：市街化区域の拡充等による企業や大型商業施設の誘致促進および商工業の振興について

⇒基本目標1 企業立地・事業者支援の推進

①企業立地の支援

- ・都市計画の中で、土地利用の調整を通して、広く効果的な企業立地の支援につなげる。
に一致している。

○公約：市内幹線道路(野洲駅北口線、県道菖蒲線、大津湖南幹線など)の整備促進について

⇒基本目標1 企業立地・事業者支援の推進

②企業活動を活性化させる環境整備

- ・道路、緑地、公共施設等を適正に管理し、計画を実行する。
- ・公共交通の利便性を向上させることにより、通勤課題を解消し、物流環境を向上する。
に一致している。

○公約：ふるさと納税について

⇒基本目標3(生み出す力)で、地域ブランド創出に一致している。

～委員による意見交換～

4. その他

- ・貴重なご意見を賜り、第1回から第3回にわたり開催した委員会が有意義なものとなった。本日が最終回となり、委員の皆様へ感謝申し上げます。
- ・本日の委員会で頂戴した意見を、基本計画に反映させ、委員長へ確認の上、最終案を調整する。出来上がった案は、委員の皆様へ見ていただけるようにする。
- ・今後の予定としては、1月にパブリックコメントを募集し、公表予定で準備を進める。

5. 閉会

❖委員からの主な意見・質問

◇市街化区域の拡大

【委員】市長の公約にあるように市街化区域の拡大は大切。重点施策として力を入れることを提案する。

→【委員】ご指摘の通り、市街化区域拡大は、本市にとって重要なことである。市長は、地区計画について、定期見直しのほか、随時編入も視野に入れておられる。そうしたことも踏まえ、重点施策としたい。

◇市民の役割

【副委員長】市民の役割を条例に定めていたが、この基本計画にも盛り込むことを提案したい。市民（消費者）には、大型店に行くだけでなく小型店舗も利用してほしいと考えている。

→【委員】市民の立場が入るよう、基本計画の中で「市民とともに」という言葉を入れてほしい。

◇資料データ

【委員】経済センサスの出典データはH28とあるが、最新のものか。

→【事務局】最新のデータを利用している。

◇目標指標の設定

【委員】前回の委員会で提案し、改善されたこととして、目標指標が定められたことは良いといえる。他には、まちが発展すれば労働人口が増え、税収が増加することがいえるだろう。

◇駅前のにぎわい

【委員】基本目標の中に、駅前のにぎわいをいれるのはどうか、提案する。

→【委員】駅前は、にぎわいと活力を生むことを、抽象的ではあるが、一文入れる必要はあると考えている。

→【副委員長】急に商店街はできないが、駅前にイルミネーションをして人に来てもらうなど、盛り込んでどうか。

→【委員】駅前についての先のことはわからない。総論的になってしまうのはやむをえないだろう。

→【委員】コロナ禍となってからは駅前に人が少なくなった。また、駅前の病院予定地だったところは、何も建たず何年もこのままだった。

◇野洲ブランドの支援

【委員】地域ブランドを一から創り出すのではなく、今ある特産品を育てる、「野洲ブランド」を支援するという強い言葉がほしい。ふるさと納税を掲げる新市長のもと、進めていくことになるだろう。また、イルミネーションに商業的な何かを足して、オクトーバーフェストのようなものを作って、行政が音頭を取ってやってもらえればと思う。

→【委員】クラウドファンディングを募る方法もあると思う。

- 【委員】地域ブランドの具体化について、何か企業にもできることはあるか。
- 【委員】お客さんが来ない、売る場所がない。こういったことが課題にある。対策として電子商取引が挙げられるが、ノウハウがなく、また、依頼をすることにお金がかかるだろう。宣伝方法としては、例えば、会社の食堂に売りに来る方法も挙げられるだろう。本社では、休憩時間に売りに来られることもあった。また、実際に売りに来るだけでなく、社内にチラシを置くだけでも、野洲市に働きに来ていた社員が目にするだけで関心を持ち、変わってくるだろう。
- 【委員】近江八幡市には、若い人達に地域にある資源を知ってもらい、人材を育てる取り組みをしている事業者もいる。
- 【委員】野洲市はPRが薄く、ひとまとまりになっていないので、今あるブランドを強めていくことが必要だと思う。
- 【委員】行政懇談会で、市長がお話されたが、ふるさと納税の返礼品についても、考えていきたいとしている。何か地元企業の製品などおもしろいものがあればと思う。
- 【委員】誰に相談してよいのかわからないので、特産品を育てるために、市や観光物産協会などに、週1～2回でも相談できる場があればと思う。
- 【事務局】先週は、11月14日、15日に観光物産協会が地元の大型小売店舗でイベントを行った。市内店舗の出店や、地元の高校のステージ出演もあり、市民に野洲市の特産品をよく知ってもらう機会ができた。
- 【委員】ふるさと納税がきっかけとなって、今住んでいる人だけでなく、昔住んでいた地元出身の人に知ってもらうことにつながる。今はコロナの影響で、チャレンジするリスクがとれる。人はそこそこうまくいっているときは、新しいことはできないものだ。これまでと同じようにはいかない環境だからこそリスクがあることもできる。大学では、従来なら就職を選ぶ中でも、コロナ禍で進学を選ぶ学生も増えてきている状況がある。商売と同列には扱えないかもしれないが、変化があるのは事実だ。

◇市民活動

- 【委員】野洲は昔から熱心に市民活動に取り組んできた。世代交代がうまくできるとよくなるだろう。
- 【委員】野洲生活学校では、環境・食問題について取り組んできていて、市民の力は強く、協力的であると感じている。

◇小規模事業者の現状

- 【副委員長】商工会では、事業者から、相談よりも今日明日のお金がほしいという声を聞く。コロナ禍にあり、小規模事業者は特に現状についてこれない状況である。事業資金については、正月すぎ、3月の期末が心配される。
- 【委員】補助金などの支援で回復しているところもあると聞く。何か知恵があれば。
- 【委員】短期的な支援は、行政も行っている。本委員会では、長期的な支援を議論をするが、今後は、駅周辺と市民サービスセンター周辺は地域の核となるだろう。

◇文章の修正

- 【委員】前回、基本計画（案）P2.「はじめに」の文章の修正を提案したが、反映されていない。
- 【事務局】ご指摘の点、修正が漏れていたため、追加修正する。

◇参考資料の見栄えを整理

- 【委員】解像度が低い図表については、綺麗なデータに差し替える、また、出典部分のフォントやカッコ書きの表記においては、統一感を持たせて見栄えを整えることを求める。
- 【事務局】ご指摘の点、反映させる。

◇村川委員から伺った意見の紹介

【事務局】文章の修正を指摘されている。以下の点。

- ・P. 2→「本条例」繰り返しを修正し、一部文章中、接続詞を入れて、文意が通じるように。
- ・P. 7→「～高く」「～少なく」が繰り返される。文意が通じるように。
- ・P. 9→「～なっています」が繰り返される。読みやすい文章に。
- ・P. 10→8行目を文意が通じるように。文章中、正確な表現として「目前」を「当面」に修正を。
- ・P. 13→基本目標1の重点施策、わかりやすいよう用語の解説を。

→【委員】修正点について、さらに追加で指摘したい。

- ・P. 9の文章を言葉のつながりが分かりやすくなるよう修正を。「BCP計画」に言葉の説明を付ける。一部堅い文章があり、かみくだいた文章に。
- ・P. 13→※注釈に印に色を付けて、見やすく。

◇農業について

【委員】農商工の連携はできないか。私は以前、農業の基本計画の委員を務めていた。

→【委員】農業についてもそういった観点もあってしかりと考えている。野洲市農業振興計画の中で、農業と商工との連携については定めており、今回策定する計画は商工業という視点がぼやけてしまわないように留めている。

→【副委員長】野洲市商工会では、令和2年4月にアグリ部会を立ち上げた。今年度、野洲駅前で行う予定のバルに地元の農産物を出すことを計画している。

→【委員】農業では6次産業化など協働していきたいと思っている。

◇事業を取り巻く状況の変化

【委員】今はコロナ禍でできなくなっているが、学校で和菓子文化を教えることもしている。30年前は、和菓子というのは40代の地元の女性が主な購買層で、自転車で来店された。一方現在では、若い女の人が市外から車で来られるようになり、状況が大きく変わっている。

国の施策が始まり、GoToキャンペーン加盟店になっているので、来店時に券を使う方もおられる。また、本市のプレミアム商品券事業はよかったと感じている。次は何をしていくかということも重要。

→【委員長】建築設計などの事業者としては、今後どういった取り組みが考えられるか。

→【委員】IoTなど、新ビジネスに向けて皆で取り組んでいきたいと思う。

→【委員】コロナ禍の中、工業会でもWeb会議など行っている。工業会としては、販売の場など、できることがあれば、協力させていただきたいと考えている。インスタグラマーやYoutuberなどのインフルエンサーと呼ばれる人達を活用するのも、今流行のやり方で良いと思う。

→【副委員長】米原の商工会がネット販売をしているが、一番よく売れるのはお米であると聞いている。昔の感覚で商売するのではなく、売り方を考えることで変わっていく。